第５学年　学級活動指導案

学校名　筑後市立水洗小学校
指導者　教　諭　山下　寛晴

１　題材名　　「自分のよさを生かすために」（内容２－ウ　望ましい人間関係の形成）

２　題材設定の理由

○　本題材のねらいは、友だちの助言を受けながら自分のよさの生かし方を自己決定していくことを通して、自分のよさをさらに伸ばし、望ましい人間関係を育もうとするものである。男女共同参画教育の育てたい資質・能力に、豊かな心と実践的態度がある。これらは、望ましい人間関係の形成や、自己の理解を深め、個性の伸長を図る態度の育成といえる。

　そこで、相互に友だちのよさの生かし方を相手の立場に立って考え、助言を受けたりすることは、互いを認め合い、自分のよさや可能性に気付き、自分の能力を伸ばそうと努力する態度を育てる上でも意義あることと考える。

○　本学級は、男子１７名、女子８名の合計２５名である。これまで、学級目標としての「目標に向かってやる気と本気のクラス」の達成に向け、話合い活動や集会活動、係活動などを意欲的に取り組んできた。その活動の中で子ども達は、自分の考えを伝えることや友だちの考えを大切にすることを理解し、集団で何かをやり遂げる達成感などを味わってきている。

　また、自発的、自治的な活動が育ち、自分たちで楽しく充実した学級や学校の生活づくりをしていこうという意欲がみられるようになっていきている。

○　本時のねらいは、自分のよさを学習や生活場面で、そして将来に向けて、どのように生かしていくかを自己決定させたい。

　そのために導入で、友だちが発見した自分のよさやよさの生かし方について書いてくれた手紙を読むことで、自分のよさを再発見し自信をもたせる。次に展開前半では、友だちの手紙と事前に立てた仮の自己決定とを比較しながら、再度自分のよさをどう生かしていくか考え、手紙をくれたグループの友だちと一緒に話し合う。展開後段では、友だちの考えを大事にしながらも、最後は主体的に伸ばしたい自分のよさや可能性を決め、どのように生かしていくか自己決定する。さらに終末では、自己決定したことを発表し一人一人の自己決定を認め激励し、今後の実践活動にあたっての意欲づけをする。

○　本題材は、道徳教育高学年の内容項目

１の（６）「自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。」 ２の（２）「だれに対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にする。」 ２の（３）「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」

と密接な関係をもっている。そこで、本題材をとりあげ実践することは、男女共同参画教育の育てる資質・能力の一つである豊かな心を育成することにつながり価値があると考える。

３　目　標

○　自分のよさを学習や生活場面、また将来に向けて生かそうと意欲をもつことができる。
○　自分や友だちのよさを認め、他者を受け入れることができる。
○　自分のよさを生かす場面が日常の生活の中にあることを理解できる。
○　自己決定した内容をより伸ばすために、今日からでも実践することができる。

４　指導計画（１時間）

	児童の活動	教師の指導（評価）
事前指導	○　自分のよさをどんな場面でどう生かすか仮の自己決定を書く。 ○　グループ内の友だちのよさを見つけ、どんな場面でどう生かせるか助言の手紙を書く。	○　半年前のよさ見つけを想起し、今のよさに気付かせる。 ○　相手の立場に立って真剣に考えることを伝え、生活場面での生かす方法を書かせる。

本　時	○　友だちの手紙から自分のよさを再発見し、グループで話合いながら自分のよさの生かし方を自己決定する。	○　自分のよさを生かした具体的場面での自己決定を促し、実践カードに実践することを書かせ、意欲をもたせる。
事後指導	○　自分が生活場面で取り組むと決めたことを実践する。 ○　自己評価をする。	○　実践カードに書いたことの達成のため、実践期間を設定し、できた子を賞賛していく。

5　本時の展開

（1）ねらい

○　学習や生活場面､将来に向けて自分のよさをどのように生かしていくか自己決定させる。

○　自己決定したことを実践していこうという意欲をもたせる。

（2）展　開

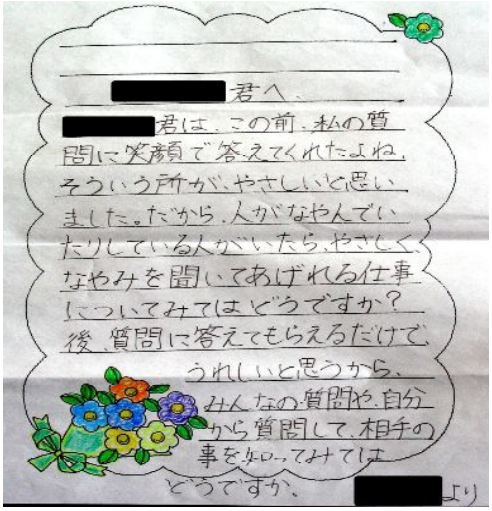
段階	子どもの活動	教師の指導と援助	評価の観点
導入	1　自分たちの課題に気付き、めあてを決める。 ○　事前に書いた自分のよさやよさの生かし方について振り返り、たくさんは書けなかったことに気付く。 ○　本時のめあてを書く。	○　自分のよさやよさの生かし方について、あまり書くことができなかったという共通の課題を学級全体に確認させる。 ○　自分のよさをこれからどう生かしていくか考えようという気持ちをもたせる。	○　本時の課題に関心をもてたか。 ○　自分のよさを生かしていこうとする意欲をもつことができたか。
	自分のよさを再発見し、生活場面への生かし方を考えよう。		
／展開（前段）・（後段）	2　友だちからの手紙を読む。 ○　友だちからのよさやよさの生かし方を見て、新たに自分のいいところを知る。	○　友だちの助言から相手に対する思いやりや親切な心を受けとめるよう指導する。	○　自分のよさや可能性に気付くことができたか。
	3　友だちからの手紙と自分の仮の自己決定とを比べる。 ○　友だちの手紙から自分のよさを再発見する。また、仮の自己決定と比べながら自分のよさの生かし方を考える。	○　友だちの手紙を取り入れても、自分の仮の自己決定をさらに強くしてもいいことを伝え、気付いたことをプリントに書かせ気付かせる。	○　自分のよさを伸ばそうと考えることができたか。
	4　自分のよさの生かし方をグループで発表し、自己決定する。 ○　グループで自分のよさの生かし方を発表し助言を聞く。 ○　自己決定したことを実践カードに書く。	○　友だちの個性を認め、男女協力して話合いを進めるために、男女混合のグループで話合い活動をさせる。	○　互いに認め合った話合いができているか。
／終末	5　本時のまとめをし、今後の実践意欲を高める。 ○　自己決定したことを発表する。 ○　実践への意欲をもつ。	○　男女数人が発表し、それぞれの自己決定を全員で認めるようにする。 ○　実践期間を集団で設定することで、実践意欲を高める。	○　実践していこうという気持ちをもつことができたか。

○　指導の実際と考察

事前指導

（１）９月に実施した名簿一覧表に一行ずつ書き込んだ「よさみつけ」を想起しながら、半年経った今の自分の「よいところ」を書かせる。

（２）相手のことを思って書くこと、自分がもらったら嬉しいと思える文にすることに注意しながら、友だちへの手紙を書く。図１は、相手のがんばりを賞賛している女子から男子への手紙である。



（図１　女子から男子への手紙）

本時指導

（１）導　入

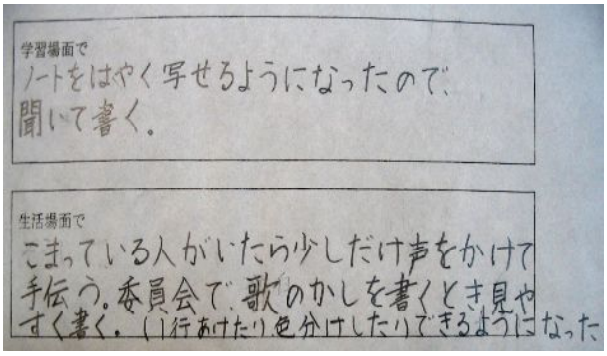
導入では、事前に書いたプリントを見ながら、①自分のよいところを書くことができていたか、②よいところをどんなことに生かしていくか書くことができていたかを尋ねると、書くことができていたという子どもは、①が１２名、②が３名だった。そこで、自分のよいところに気付いていない人が半数いること、そのよいところの生かし方をどうしたらいいか困っている人がいることを確認して、「今日は友だちと相談しながら自分のよさの再発見とよさの生かし方をみんなで考えていきましょう。」と学級の共通の課題とし、めあてを決めた。

（２）展開前段

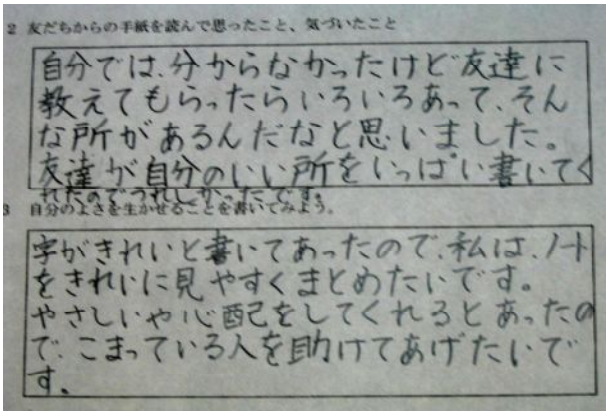
友だちの手紙を読んで、気付いたこと、思ったことを書きながら、改めて自分のよさをどう生かしたいかを書いた。

授業後、自分のよさの再発見ができたかという質問に対し、２０人の子が「できた」と答えた。このことから、「いいとこみつけ」の題材は、期間をおいて２度することに意義があると考える。また、自分で気付かなかった友だちからのよさとして一番多かったものが、「優しいところ」であった。これらは１７人の子ども達が友だちからの指摘で「あー、自分は優しいと思われているんだ。」と自分のよさに気付いたと答えた。

図２は、Ａ子の仮の自己決定だが、本時の自己決定では図３のようにたくさん書いていた。それは、友だちからの手紙がよい刺激になり、自分のよさの再発見に繋がったためと思われる。



（図２　Ａ子の仮の自己決定）



（図３　Ａ子の本時の自己決定）

（３）展開後段

男３人、女１人の４人グループをつくり、今書いた自分のよさの生かし方について友だちから助言を受けた。女子が男子に「こんないいところがあるから、こんなことをしたら」と助言をする姿や男子がその言葉を恥ずかしながらも笑顔で聞いている姿が見られた。また、女子も男子からの手紙を参考にしながら、これから取り組むことを書いている姿があり、４人グループの小集団活動を取り入れたことで話合いが活発になり、優しく男女が意見を交わす姿が見られた。

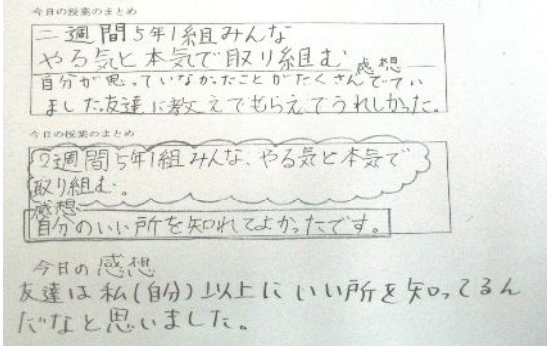
そうして、自分がこれから取り組むことを「自分のどんなよさを、どんな時に、どのように生かすのか」と実践カードに書き自己決定した。

（4）終　末

終末の発表では、最初男子だけであったが、男子の発表に誘われるかのように女子も発表をした。

個々の取り組みを学級全体としての取り組みとして実践していくことを意識させるために、実践カードで自己評価する期間を集団決定した。

授業の感想として、右のような感想（図４）が見られた。その中で、「友だちは自分以上に（自分の）いいところを知っていると思った。」と書いていた子どもが数名いた。



（図４　授業の感想）

事後指導

実践カードに２週間の期日を書き込み、◎、○、△の３段階で自己評価を行った。帰りの会で、「実践カードに今日の振り返りをしてください。」と日直が言うと、「みんながカードに記入するので、わたしもがんばろう。」と、いう意欲が感じられた。さらに、実行できた人は手を挙げさせ、自分のよさを生かす実践が続いている子どもや努力している子どもを賞賛した。

成果と課題

本実践は、「よさみつけ」を通し、男女関係なく友だちのいいところを探し、その生かし方を教え合いながら豊かな心を育み、望ましい人間関係を築き上げることをねらいとしている。

成果としては、以下の４点をあげることができる。

○　「よさみつけ」の学習を２度設定したことで、友だちのよさのとらえ方に深まりが見られ、友だち相互の信頼関係が深まったこと。

○　手紙という手法をとったことで、男女関係なく、相手のことを考え、思いやりの心を子ども達が表現できたこと。

○　男女共同参画教育で育てる資質・能力の中の豊かな心である思いやりの心、実践的態度の自他の個性の尊重、相互協力を伸ばすことにつながったこと。

○　道徳の内容である「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う」といった道徳性に関連する指導も実践できたこと。

特に、事前、本時、事後の過程において常に子どもたちは友だちを意識し、そこには一人一人の個性や能力のよさを見ようとしていた。そのことは、事後の実践カードへの記入時において、お互いに「あの時できていたんじゃない。」と友だちの実践評価に対し認める発言がグループ内で交わされる姿が見られ、男女共同参画教育の資質に迫ることができたと思われる。

課題しては、以下の３点があげられる。

○　個々の課題を学級全体の共通の課題とする方法である。本時では自分のよさやよさの生かし方に気付きにくいことを共通の課題としたが、他に「学習や生活、将来に向けて」といった場面設定も共通の課題とすることができるのではないかと思わたこと。

○　学習展開に応じた机の形態の工夫があったのではないか。本時では手紙を一人でじっくり読ませたいため、後からグループをつくらせたが、最初からグループにすることで手紙を読んでいる友だちの表情を見ることで信頼を深めることができたとも思われたこと。

○　終末の実践カードの提示の工夫が必要であった。本時では教師から実践カードを提示したが、子どもたちから実践の記録と、その評価方法を引き出すこともできたと思われる。その方がより子どもたちの実践意欲は高まったであろうこと。

最後に、本実践は男女共同参画教育で育てる資質・能力の「豊かな心」、「実践的態度」の育成もねらいとして指導を試みた。上記したように、事前指導時から子ども達は性差にこだわらず、友だちのことを思いやる手紙を書くことができた。さらに、友だちの手紙により自分のよさや可能性に気付き、５年生の今日将来に向けた自分のよさの生かし方を考えさせた。これらのことを子ども達が互いに友だちの個性を認めることができ、将来への希望や目標をもち、豊かな心の育みに近づくことができた。こういう機会を特別活動において意図的、計画的にもつことは、極めて重要であると考えた。